

第44回

インドネシア〈前編〉

神々の島々の興亡

——ポルトガル人来航までのインドネシア

リクルート=スタディサブリ講師 **村山 秀太郎**

ジャワ原人はご先祖様にあらず

有史以前のインドネシアといえばジャワ原人が有名だが、それは太平洋戦争中にジャワを占領した日本軍がその化石人骨1個を1942年に天皇の誕生プレゼントとして日本に送ったことに起因する。戦後、その頭骨が京都の皇室コレクションにあることを突き止めたGHQが接収した。ちなみに現在のインドネシア人の祖先はこのジャワ原人ではなく、中国南部から次第に南下し、約4千年前頃から住み始めた南方系モンゴロイド人とのこと。

インドネシアとはギリシア語の *indos* (インド) と *nesos* (群島) の合成語であることが示す通り、1万3千以上の島々から成る世界の群島国家だ。その歴史は大変に複雑だが、スマトラ島やジャワ島、マレー半島で栄えた王国の興亡をたどることで理解が容易になるだろう。

イスラームとヒンドゥーへの改宗

7世紀にマラッカ海峡を押さえた国家がシュリーヴィジャヤ(室利仏逝)だ。スマトラ島のパレンバン中心にマレー半島、ジャワ島、カリマンタン島(ボルネオ島)にまで版図を拡げた。唐代の僧、義浄がパレンバンに立ち寄り『南海寄帰内法伝』で大乗仏教の繁栄ぶりを記した。スマトラ島北端にあった国がサムドラ=パサイで、13世紀末にイスラーム商人やスーフィー

(イスラーム神秘主義)の影響を受けた王がイスラームに改宗した。一方、ジャワ島では9世紀になるとシャイレンドラ朝が海域に進出、ジャワ島中部に大乘仏教の仏塔(ストゥーパ)であるボロブドゥールを建立した(1814年にイギリス人ラッフルズが発見)が、この王朝はマラッカ海峡のマレー人を制圧して南シナ海のチャンパー(現ベトナム)を攻撃するほどの勢力となった。このシャイレンドラ朝はジャワ島中央部の古マタラム王国の1つであるが、隣接する地域にあるヒンドゥー教のプランバナン寺院群は最終的に古マタラム王国を統一したサンジャヤ王統によるものだった。この寺院には『ラーマヤナ』の物語が描かれていた。

ジャワ島では陸域のジャワ人が10世紀から勢力を伸ばし、東部ジャワのクディリ盆地を中心にヒンドゥー教のクディリ朝のもとで農業と海上交易が結びついた。同朝ではワヤン(影絵)などジャワ文化が開花した。

